

# 韋 編

いへん

愛知大学図書館報

No. 29

「韋編」……文字を書いた竹や木の札を、なめし皮の紐でとじた上古の書物。

## 車道校舎新図書館の「私的」利用法

法学部長 加藤 克佳

1 2004年4月、愛知大学の長年の懸案であった車道再開発の目玉として、車道新校舎が開校された。この新キャンパスでは、法科大学院（ロースクール）がスタートするとともに、法学部3・4年次生、法学部2部生もここで学ぶ。その意味で、車道校舎は愛知大学の法学教育の中心となったわけである。

学生生活の大きな柱が「勉学」であることはいうまでもないが、インターネット等他の媒体の普及（情報の多様化）や社会全体の多忙化などの影響であろうか、世の中全般に活字離れが指摘されてすでに久しい。しかし、そういう風潮だからこそ、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」という朱子の言葉の意味を再認識すべきだと思う。私自身、当時それに思い至らなかった不明を後悔するとともに、学生の皆さんには、時間的・体力的にみて最も余裕のある学生時代にこそ食欲に読書に没頭してほしい、と期待することしきりである。たしかに、今は生涯学習の時代と言われ、勉強はいつからでも始められる。しかし、頭が柔らかい若いうちなら幾らでも吸収することができるし、少々無理も可能である。また、勉強は一生続けるべきもので



ある（特に専門職に就く場合）が、それでも、若いときにしっかりと蓄積しておくことは、その後の人生の確かな基盤を作る、という意味で極めて重要であろう。

2 これらを前提として、皆さんが車道校舎新図書館を利用する場合に、どのようなことを心がければよいであろうか。以下は、私が利用者だとしてどうするか（さらに、今も勉強中の一学生としてどうすべきか）について、考えるところを書き連ねてみたい（これが、表題を、「私的（わたくしてき）」利用法とした所以である）。

まず、大学に来たときの生活の中心を図書館に置くことが考えられる。車道校舎は、比較的低層階に図書館があり、教室は比較的高層階にある。大学に来たらとりあえず図書館に立ち寄るくらいの意気込みがほしい。次に、実際に蔵書を手に取ってみる。講義やゼミで指示された書籍や雑誌等に接し、必要があれば複写したり借り出したりする。さらに、新着図書や雑誌にも目を向け、最近の動きを感じられれば文句なしである。

一方で、最近では、いわゆる電子情報がCD-ROMやオンラインで提供されており、車道図書館でもこれらの利用が相当程度可能と

なっている。これからの時代には、インターネットの活用ないしデジタル情報の検索・処理方法の修得が、卒業後どのような分野に進むにせよ、益々重要となる。しかし、それによって地道な読書や資料読みが不要となるわけでない。むしろ、情報処理自体は前提作業にすぎず、それをいかに駆使して創造的な成果を上げるかが問われる。一例を挙げれば、ゼミ報告や卒論で法的問題を扱う場合には、どれだけ関連文献や判例を収集するか自体ではなく、むしろ、それを適切に「料理」して解決策を考え出すことが期待される。そして、その際の決め手は、やはり、読書で培った論理的思考力や分析力、判断力ではなからうか。こればかりは「一夜漬け」は効かず、日頃の努力がものをいうであろう。

**3** 車道図書館は、他の2校舎の図書館に比べると、幾つかの特徴や問題点をもつ。たとえば、都心のキャンパスで早朝から夜遅くまで開館しているので、利便性が高い。また、法学部生の利用を主としているため、法学系の書籍・雑誌が中心となっている。しかし他方、皆さんがこれだけしか目にしないというのは問題である。OPACなどを用いて他校舎にある他分野の蔵書にも目を向けることを心がけてほしい。関連して、車道図書館はスペース的に狭いので、法学系の蔵書数も名古屋図書館の方が相当に多い。そこで、

他校舎からの蔵書取寄せを大いに活用するとともに、実際に名古屋図書館等にも出向いてほしい。また、本図書館の蔵書増加を積極的に要望することも、皆さんに期待される。スペースや予算の制約があり難しい面もあるが、小規模なだけに、利用者の声が多く反映されるような蔵書構成や運営は十分可能であるし、図書館職員もそのために尽力して下さるであろう。

この拙文を書きながら、数年前にドイツで海外研修をしたときのことを思い出す(拙稿「ドイツの図書館と法律図書事情」本誌18号[1998年12月]2頁参照)。というのは、特に学習支援という点で、車道図書館の基本コンセプトは、私の知るドイツの幾つかの図書館と類似しているからである。ただ、決定的に違うのは、歴史のなさであり、この新しい組織・施設はまだ歩き出したばかりである。しかしだからこそ、利用者の皆さんには、これを共に育てるくらいの気持ちで愛用し、歴史作りに参画してほしいと思う。

**4** 終わりに、法科大学院図書室について一言する。ここは、図書館より開館時間が長く、専用机もあるなど、学生への支援をさらに徹底している。院生が目標達成のためこれを十分活用されるとともに、学部学生の皆さんには、その厳しい雰囲気や垣間見て勉学への刺激を受けることを期待したい。



車道図書館4階



法科大学院 図書室5階